

# 携帯メールにみられる日本語学習者の敬意表現の誤用

水田 直美・土井 佳彦\*・山本 健治\*\*

倉敷芸術科学大学国際教養学部

\*倉敷芸術科学大学留学生別科非常勤講師

\*\*倉敷芸術科学大学大学院人間文化研究科

(2003年9月30日 受理)

## I 目的

近年、メール機能を備えた携帯電話の普及が目覚しく、特に若年層では通話機能よりもメール機能が主として利用されている。日本人大学生の携帯電話の使用状況については、田中(2001)において携帯電話の所持率は96.3%であり、主な使用機能としてメール機能は通話機能の上位にあるという調査結果が報告されている。

留学生についても、2003年6月に倉敷芸術科学大学で調査を行ったところ、回答者91名の内、携帯電話を所持している者87名(95.6%)、携帯電話のメール機能を使用している者69名(75.8%)という結果が得られた。また、携帯メールの送信対象も留学生だけでなく、日本人学生、教職員、アルバイト先など多岐に渡っていた。<sup>1)</sup>

メールの送信対象が教職員、アルバイト先など発信者である留学生にとって上位となる場合、発信者である留学生は対象に応じて適切な敬語を使用してメールを書くことが必要となる。メールでは文章のみで書き手の意図を適切に伝えなければならず、相手の発言や態度によってその場で語句を訂正したり、内容を補足したりすることもできない。送信されたメールの文章は受け手の携帯電話やパソコンに記録が残り、繰り返し読まれることもあるため、受け手は一過性である会話等の話しことばと比べ、誤用や不適切な表現に非寛容である。さらに、パソコンを使用して送受信される一般のEメールに比べ、表示されるディスプレイが非常に小さく、字数制限もある携帯メールでは、簡潔でわかりやすい文面を作成することが求められる。

佐治(1992)、杉山(2003)等でも述べられているように、日本語学習者にとって敬意表現の習得は大きな課題の1つであり、必要とされる内容も、尊敬語や謙譲語といった狭義の敬語だけでなく、受給表現の使用、適切な表現の選択など幅広く、狭義の敬語を含む敬意表現全般に渡っている。携帯メールで適切な敬意表現を用いて日本語を書くことは、日本語学習者にとって大変なことであるが、先にあげた携帯メールの普及状況や学習者のニーズを考えると、今後の日本語教育で扱っていく必要がある。

そこで本論では、日本語学習者の携帯メールにみられる敬意表現の誤用分析を行い、携帯メールで必要とされる敬意表現の種類と、敬意表現に関わる習得上の問題点を考察する。なお、敬意表現の誤用は母語や文化の影響があると考えられるため、中国語を母語とする日本語学習

者3名の携帯メールを分析対象とした。

## II 方法

倉敷芸術科学大学の留学生を対象に2003年4月～6月に実施された、携帯メールを使用した日本語学習の一環として、中国語母語話者3名から教員に送信された携帯メールの日本語の文章について、敬意表現の誤用の分析を行った。なお、この日本語学習では、教員による携帯メールでの日本語指導以外に、週1～2回、各30～40分程度の面接指導も実施され、日本語能力の向上に一定の成果が見られた。

敬意表現の誤用の分析にあたっては、窪田・池尾(1971)、佐治(1992)、杉山(2003)を参考に、以下のように分類した。

- ①普通体・丁寧体の使い分け
  - a) 文中    b) 文末
- ②人の呼び方・示し方
- ③尊敬・謙譲の表現
  - a) 尊敬語    b) 謙譲語    c) 不必要な敬語の使用    d) 不適切な表現の使用
- ④受給表現・恩恵の授受の認定
  - a) 授受表現の不使用    b) 敬意表現    c) 不適切な表現の使用
- ⑤名詞に付属する「お」「ご」の使用
- ⑥話しことばの使用
- ⑦不適切な記号の使用

①は丁寧体を使用する必要があるにも関わらず、普通体を使用している誤用である。このタイプの誤用は、文中の場合、接続の習得とも関わりがあるので、さらにa) 文中、b) 文末に分けて検討する。

②は、自称詞、対称詞を含む敬称の誤用についてである。日本語は相対敬語であり、外部の者と話す時には、例え目上であっても自分と同じ所属の者に対し敬意表現を使用しないことが普通である。

③は受給表現以外の尊敬・謙譲に関わる表現についてである。このタイプの誤用は多岐にわたるので、さらにa) 尊敬語を使用すべき部分での誤用、b) 謙譲語を使用すべき部分での誤用、c) 敬語を使用する必要がない部分での誤用、d) 使用されている表現自体が不適切なものの4つに分けて検討する。なお、受給表現に関わる敬語の誤用も本来は③に含まれるが、受給表現の習得は日本語学習者にとって大きな問題となる部分なので、別途④で取り扱う。

④は受給表現の使用に関わる誤用についてで、a) 利益や恩恵の授受を認めて受給表現を使用する必要があるのに使用していないもの、b) 受給表現は使用しているが尊敬・謙譲の形にできていないもの、c) 受給表現を使用すること自体が不適切なものの3つに分けて検討する。

⑤は接頭辞「お」「ご」に関わる誤用についてである。ここでは名詞への付属の誤用のみを

扱い、「お～する」「お～になる」のような動詞に関わるもの、接頭辞+形容詞については③で扱う。

⑥は教員に対してのメールなので書きことばを使用する必要があるにも関わらず、話しことばを使用しているものである。

⑦は不適切な記号を使用しているもので、文末の語尾をのばす代わりに「～」や教員に対しての文での「!」、顔文字等があげられる。

### Ⅲ 結果と考察

#### 1. 各被調査者の敬意表現に関わる誤用数

被調査者3名の日本語能力と、分析対象としたメール数、敬意表現に関わる誤用件数は表1の通りであった。被調査者間でメール数と文字数にばらつきがあるため、被調査者毎に全メールののべ字数とメール1通あたりの平均文字数（のべ文字数/メール数）も示した。同様に、誤用数もデータ量に差があり件数のみでは比較できないため、100字あたりの誤用数を併記した。この数値が小さいほど誤用の出現率は低く、この結果は被調査者の日本語能力と一致していた。

各被調査者の敬意表現に関わる誤用の内訳は表2の通りであった。

表1 被調査者の日本語能力・メール数・誤用数

被調査者（性別）	A（女性）	B（女性）	C（女性）
日本語能力	初級	初中級	上級
メール数	6	13	31
のべ字数（平均文字数）	865（144）	2,041（157）	3,313（107）
敬意表現の誤用件数	50	45	42
100字あたりの誤用数	5.78	2.20	1.27

表2 各被調査者の誤用の内訳

誤用の種類	A	B	C
①普通体・丁寧体の使い分け	24	1	4
②人の呼び方・示し方	2	0	6
③尊敬・謙譲の表現	14	25	16
④受給表現・恩恵の授受の認定	2	9	7
⑤名詞に付属する「お」「ご」	1	2	1
⑥話しことばの使用	2	6	5
⑦不適切な記号の使用	5	2	3
総計	50	45	42

外国語習得において、学習者が持つ中間言語体系は個人差が大きい。そのため、同程度の日本語能力であっても、特定の学習者の誤用数を単純に比較して一般化することは難しい。そこで本論では被調査者毎に詳細な誤用分析を行い、面接指導時の様子も参考に誤用の傾向を考察する。

## 2. 各被調査者の誤用の詳細と傾向

以下では、被調査者毎の敬意表現の誤用の詳細を分析し、誤用の傾向について考察する。分析した項目毎の例文(1)～(35)において、誤用を含む文は「\*」で、誤用された敬意表現の正しい形は(→)で示した。

### 2.1 中国人留学生A(女性、初級)

#### ①普通体・丁寧体の使い分け

①についての誤用24件の内、a)文中での誤用は1件、b)文末での誤用は23件であった。

留学生Aの場合、3通目までのメールでは、文末で普通体と丁寧体が混用され、丁寧体に統一されていないかった。

- (1) \*私は質問がある(→あります)。先生は今毎日中国人といっしょに勉強してる(→しています/されています/していらっしゃいます)。どんな気持ちを持つ(→持っていますか/お持ちですか)?みんな中国語を喋るとき、先生は怖くないの(→ですか)?以上、よろしくお願ひ致します。

これらの誤用について面接指導を行った4通目以降では、同様の誤用はまったく見られなくなった。

文中での誤用は1件のみであったが、留学生Aからのメールの日本語は1文が短く、接続助詞を使用した長文がほとんどみられなかったためだと考えられる。

#### ②人の呼び方・示し方

人の呼び方・示し方については、自分の身内について丁寧な呼び方をしているものが2件見られた。

- (2) \*私のお母さん(→母)はいろいろの人生哲理の物語を送りました。

#### ③尊敬・謙譲の表現

尊敬・謙譲の表現については、誤用14件の内、a)尊敬語を使用する必要がある部分での誤用が8件あった。

- (3) 明日の昼あいてます。\*先生は何時がいい(→よろしい)ですか?

このように教員に対して希望を聞く場合は、普通語ではなく尊敬語を用いなければならない。留学生Aの場合、文末を丁寧体「です・ます」にするという形でしか敬意を表せていなかった。

- b) 謙譲語を使用する必要がある部分での誤用は3件見られた。

- (4) \*私は持ってきました(→お持ちしました/持って参りました)。

(4)は、教員に指示された物を持って来たことを伝えるというものであり、このような場合、

自分の行為に対して普通語ではなく謙譲語を用いなければならない。留学生Aは謙譲語を使用すべき部分についても、尊敬語の場合と同様、文末を丁寧体「です・ます」にするという形でしか敬意を表せていなかった。

c) 不必要な敬語の使用は見られなかったが、尊敬語、謙譲語の使用自体が少なく、その結果この項目についての誤用が生じなかったと考えられる。

d) 不適切な表現の使用は3件見られた。

(5) 全部中国語です。\*先生は大丈夫 (→よろしい) ですか。

(5) は教員に見せるものが中国語で書かれているため、それでもよいかということを探っている文である。これは上位者に直接「あなたは中国語ができるか。その能力があるか。」と尋ねることになり、非敬意的である。

#### ④受給表現・恩恵の授受の認定

受給表現・恩恵の授受については、a) 受給表現の不使用が1件、b) 敬意表現の誤用が1件であった。

(6) \*私のお母さんはいろいろの人生哲理の物語を送りました (→送ってくれました)。これはa) の誤用例で、その行為によって恩恵を受けたにもかかわらず、適切に表現されていない。

(7) \*先生に心配してくれた (→くださいました)。

この文では、恩恵を与えてくれた教員に対して、敬意が適切に表されていない。

c) 不適切な表現の使用は1件も見られなかった。

#### ⑤名詞に付属する「お」「ご」の使用の問題

名詞に付属する「お」「ご」の誤用は1件見られた。

(8) \*もし先生今日昼は時間 (→お時間) があります。

ここでの「時間」は、教員の所有と考えられ、「お」「ご」を付けて尊敬語とすべきである。ここでも③と同様、名詞においても敬語を使用していない。

#### ⑥話しことばの使用

書きことばを使用すべきところで話しことばを使用している例は2件見られた。

(9) \*めちゃ (→とても/非常に) 幸運だよ。

留学生Aは、面接時にも(9)のような話しことばを使用することが多かった。日本語では、書きことばと話しことばの使い分けは非常に重要であり、教員に対してこのようなことばを使用することは、話しことばであっても不適切である。

#### ⑦不適切な記号の使用

不適切な記号については、2種類で計5件の使用が見られた。

(10) \*私ほしい。

(11) \*よろしくね。

面接時に確認したところ、留学生Aは「～」は親しみを、「！」は強調を表していると述べた

が、どちらも教員に対しては不適切である。この問題に関しては、面接指導した4通日以降、同様の誤用は見られなくなった。

## 2.2 中国人留学生B（女性、初中級）

### ①普通体と丁寧体の使い分け

留学生Bの場合、b)文末において普通体と丁寧体を混用することはなく、a)文中で次のような誤用が1件見られたのみであった。

(12) \*先生いつも忙しい (→お忙しいです) からそれはわかっています。

### ②人の呼び方・示し方

人の呼び方・示し方については誤用は見られず、書き手と読み手、話題の人物との関係を考慮した上で、正しく使い分けられていると考えられる。

### ③尊敬・謙譲の表現

この問題に関する誤用25件中、a)尊敬語を使用する必要がある部分での誤用は12件見られた。

(13) \*先生の都合がいい (→よろしい) 時間を選んで会いましょう。

またb)謙譲語を使用する必要がある部分での誤用は6件見られた。

(14) \*わからないところを先生に聞きます (→お聞きします/伺います)。

留学生Bも留学生Aと同様に、動詞・形容詞を尊敬語や謙譲語にできておらず、文末を「です・ます」体にするだけでしか敬意を表せていなかった。

c) 不必要な敬語の使用は見られなかったが、留学生Bも尊敬語、謙譲語の使用自体が少なく、その結果この項目についての誤用が生じなかったと考えられる。

d) 不適切な表現の使用は7件見られた。

(15) \*私の意味は先生いつも忙しいので忘れないように言いました。

留学生Bのメールでは、(15)のように教員に対して注意を促したり、指示したりしていると思なされる表現が多く見られた。このように学生が教員に対して直接的な表現をすることは失礼で、相手に不快感を与えてしまう。このような表現については、面接指導を行ってもなかなか改善されなかった。

### ④受給表現・恩恵の授受の認定

この問題に関する誤用9件の内、a)受給表現の不使用は2件、b)敬意表現の誤用は5件、c)不適切な表現の使用は2件であった。

(16) \*日本語がもつとうまくできるために先生といっしょに勉強したい (→に教えていただきたい) と思います。

(16)はa)の例であるが、このような場合、学生は教員から恩恵を享受する(日本語を習う)ため、受給表現を用いなければならない。

(17) \*Y先生はいつも忙しいですので、先生から教えてもらいたい (→いただきたい) です。

これはb)の例であるが、恩恵を与える側が教員、受け取る側が学生である場合は、受給表現に敬意表現を合わせた表現をしなければならない。

(18) \*先生にメールして差し上げました (→致しました/させていただきました)。

学生が教員に対して直接恩恵を与えることを示すことは、敬意表現の使用・不使用にかかわらず失礼に当たり、c) 不適切な表現の使用とみなされる。

#### ⑤名詞に付属する「お」「ご」の使用の問題

名詞に付属する「お」「ご」の誤用は2件見られた。

(19) \*よく先生に迷惑 (→ご迷惑) をかけてごめんなさい。

ここでは、学生によって迷惑を被るのは教員であるため、尊敬語としなければならない。

#### ⑥話しことばの使用

話しことばの使用は6件見られた。

(20) \*いっぱい (→たくさん) 間違ったところから見ると私はまだ勉強不足だと思います。

このように、直接相手に対するものでなくとも、教員に対する話しことばの使用は避けなければならない。

#### ⑦不適切な記号の使用

この問題に関しては、不適切な記号の使用が1件、顔文字の使用が1件見られた。

(21) \*先生へ初めまして。

(22) \*今こんばんはと言ってあいさつします。(笑う) o (Λ\_Λ) o

面接時に確認したところ、留学生Aと同様、留学生Bも「～」や顔文字は親しみを表していると言ったが、やはり教員に対してこれらの記号を使用するのは不適切である。

## 2.3 中国人留学生C (女性、上級)

### ①普通体・丁寧体の使い分け

普通体・丁寧体の使い分けについての誤用4件の内、a) 文中での誤用は3件であった。

(23) \*今日たっぷり寝た (→寝ました) けど体はもっとだるくなります。

このタイプの誤用は、先にも述べた通り、単に丁寧体の習得の問題だけでなく、接続の習得も関係していると考えられる。

b) 文末での誤用は1件のみであった。

(24) \*よく負けたらたくさん卵を食べなければならない (→なりません)。

(24) は教員に中国の行事について説明している文で、教員に対して直接言及する文で丁寧体を使用することは習得していると考えられる。また、面接指導後は(24)と同様の誤用も見られなくなった。

### ②人の呼び方・示し方

人の呼び方・示し方についての誤用6件の内、2件は自分のアルバイト先に対して敬称を使用したもの、4件は親族呼称に関わるものであった。

(25) \*私のお父さん (→父) とだいたい同じ年齢です。

アルバイト先への敬称は9通目、親族呼称に関わる誤用は24通目のメールでのみ見られ、注意を受けたそれ以降のメールでは同様の誤用は見られなくなった。留学生Cは相対敬語の習得に問題があったが、指導によって改善されたと考えられる。

### ③尊敬・謙譲の表現

この問題についての誤用16件の内、a) 尊敬語を使用する必要がある部分での誤用は6件見られた。

(26) \*先生も朝早く起きています (→起きられています/起きていらっしゃいます) ね。

これらの誤用で謙譲語との混同は見られず、他の被調査者と同様、全て普通語を使用していた。

b) 謙譲語を使用する必要がある部分での誤用は4件見られた。

(27) \*ちょっと文法のところが聞きたい (→うかがいたい) です。

これらの誤用の場合もa) と同様、尊敬語との混同は見られず、全て普通語を使用していた。

c) 不必要な敬語の使用は1件見られた。

(28) \*店長は時間を減らしてもうしばらくやってくださいねと言われ (→言う) んです。

(28) は教員に対してアルバイト先で言われたことを説明している文で、②と同様、9通目のメールでのみ見られた誤用である。この誤用もやはり相対敬語の習得の問題に関わっており、指導により改善されたと考えられる。

d) 不適切な表現の使用は5件見られた。

(29) \*いっぱい書いてくれました。\*お疲れ様でした (→ありがとうございました)。

(29) は教員が日本語の誤りを訂正してくれた事に対するの言及であるが、この場合は他人事のように「お疲れ様でした」と述べるのではなく、その行為に対して感謝の念を表さなくてはならない。このような不適切な表現の使用は、なかなか改善されなかった。

### ④受給表現・恩恵の授受の認定

この問題に関しての誤用は7件で、a) 受給表現の不使用が3件、b) 敬意表現の誤用が3

c) 不適切な表現の使用が1件見られた。

(30) \*夕方4時半ごろに変わっても (→変えていただいても) いかがでしょうか？

(30) はa) の例で、面接指導を受ける時間の変更を依頼しているが、このような場合には自動詞の「変わる」の代わりに他動詞「変える」を使用するだけでなく、依頼の実現によって相手から恩恵を受けるので、受給表現も使用しなければならない。

(31) \*例をあげてくれませんか (→くださいませんか)。

(30) と同様、(31) も依頼の相手が上位者である教員なので、受給表現「くださる」を尊敬語にしなければならず、b) のタイプの誤用になる。

(32) \*その時正しい発音が教えて差し上げます。

(32) はc) の例で、受給表現を謙譲語に直すことはできているが、上位者に対して「教えてあげる」という恩恵を与える表現をとる事自体が問題となる。この場合、日本語では「(この次



にお目にかかった時に、)正しい発音をお聞かせします。」あるいは「～お聞かせしましょうか。」のように受給表現を避ける必要がある。この誤用については、面接指導で説明しても理解に時間がかかった。

#### ⑤名詞に付属する「お」「ご」の使用の問題

名詞に付属する「お」「ご」の誤用は1件見られた。

(33) \*先生の都合 (→ご都合) によってたまたま面談して貰えたらすごくありがたいです。この場合、「ご」を付属して尊敬語とする必要がある。

#### ⑥話しことばの使用

話しことばを使用している例は5件見られた。

(34) \*破れちゃった (→破れてしまった) 卵はすぐ食べて、よく負けたらたくさん卵を食べなければならない。

これらの誤用は13～18通目に見られたが、その後見られなくなったので、面接指導により話しことばを使用しなくなったと考えられる。

#### ⑦不適切な記号の使用

不適切な記号の使用は、「～」が1件、「!」が2件の計3件であった。

(35) \*自分は今までの生活も反省しています～

(35) の「～」は留学生C自身の反省について述べている部分で使用されており、真剣な反省にはそぐわない。「!」は教員に対して述べている部分で使用されており、上位者への敬意を損なう形になっていた。

以上、被調査者3名の誤用の詳細を述べてきたが、どの被調査者も「③尊敬・謙譲の表現」と「④受給表現・恩恵の授受の認定」に多くの誤用が見られた。また③、④では、誤用が少ない項目についても、それらの項目について習得しているというより、それらに関わる表現を避ける、つまり非用の状態にある可能性が高い場合がある。

尊敬・謙譲の表現については、普通語を尊敬語・謙譲語にすることが出来ていない場合が多かった。不適切な表現の使用も各被調査者にみられ、日本的な配慮に沿った表現の習得の困難さをうかがわせている。

受給表現・恩恵の授受の認定についても、陳(2003)で取り上げられているように、日本的な配慮表現を使用することは学習者にとって課題になっていると考えられる。

## IV おわりに

近年日本人大学生だけでなく、留学生の間でも携帯電話が普及しており、携帯メールも頻繁に使用されるようになってきている。日本で学生生活を送り、アルバイトや就職を希望する留学生にとって、携帯メールを使いこなせるようになることへのニーズは高い。

大学の教職員やアルバイト先の雇用主等、書き手である留学生よりも上位の者にメールを送

信する場合、尊敬・謙譲の表現や、受給表現・恩恵の授受の認定に関わる表現を適切に使用することは、対人関係を円滑に運ぶ上で重要である。しかし、留学生の書いた携帯メールの日本語について誤用分析を行った結果、尊敬・謙譲の表現や、受給表現・恩恵の授受の認定に関わる表現に多くの誤用がみられ、日本的な配慮表現の使用の習得にも問題があることも明らかになった。

大学での日本語教育において取り上げられる書きことばは、論文やレポートが中心となっているが、今後は書きことばの一つとして携帯メールも取り上げ、学習者のニーズに合った実践的な日本語の指導に取り組んでいく必要があるだろう。

#### 注

- 1) この調査報告は「留学生の日本語指導における携帯メールの活用」として、日本国際文化学会第2回全国大会(2003年7月東京)で発表した。

#### 参考文献

- 1) 田中ゆかり 2001「大学生の携帯メール・コミュニケーション」『日本語学』第20巻第10号 pp.32-43 明治書院
- 2) 佐治圭三 1992「中国人学習者の間違いやすい敬語表現」『外国人が間違いやすい日本語の表現の研究』pp.121-138 ひつじ書房
- 3) 杉山アイシエメール 2003「外国人から見た敬語」『朝倉日本語講座8 敬語』pp.252-275 朝倉書店
- 4) 窪田富男・池尾スミ 1971『日本語教育指導参考書2 待遇表現』文化庁
- 5) 陳淑海 2003「配慮表現からみた日本語⑥おかしな挨拶」『月刊日本語』第16巻第9号 pp.70-73 アルク

## An Error Analysis of Polite Expressions Used by Japanese Learners in Text Messages on the Cell Phone Email System

Naomi MIZUTA, Yoshihiko DOI\*, Kenji YAMAMOTO\*\*

*College of Liberal Arts and Science for International Studies*

*Kurashiki University of Science and the Arts,*

*2640 Nishinoura, Tsurajima-cho, Kurashiki-shi, Okayama 712-8505, Japan*

*\*Courses in Japanese Studies for Students from Overseas, Kurashiki University of Science and the Arts*

*\*\*Graduate School of Science and the Humanities, Kurashiki University of Science and the Arts*

(Received September 30, 2003)

Recently, the use of wireless email on cell phone have become popular among international students. They send messages not only to their friends but to the various addressee; to their academic advisors, to bosses of their part-time jobs etc.. In these cases, it is necessary for them to write messages with appropriate level of politeness according to the status of the addressee.

In this paper, we investigated errors in text messages on the cell phone emails written by the learners of Japanese. As a result, we found various errors; simple grammatical errors in honorifics, inappropriate choice of polite expressions etc.. Errors in politeness appeared frequently even in the mails written by advanced learners.